

第3回 第3次石狩市観光振興計画策定委員会 議事録

日 時：令和3年12月1日（水） 10：30～11：10

場 所：石狩市役所 3階 庁議室

出席者：次のとおり

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
委員長	秋井 卓也	○	委 員	大内 幸二	○
副委員長	南 誠	○		和田 郁夫	×
委 員	嶋田 拓馬	○		平塚 光悦	○
	岸本 教範	○		久保田 陽子	○
	木村 邦博	○			

事務局：企画経済部産業振興担当 部長 本間 孝之
 企画経済部商工労働観光課 課長 吉田 学
 企画経済部商工労働観光課観光担当 主査 渡部 隆弘
 企画経済部商工労働観光課観光担当 主任 上村 幸平
 企画経済部商工労働観光課観光担当 主事 中村 洸太

傍聴者：0名

議 事：1. 開会

2. 議題

(1) 第3次石狩市観光振興計画の策定について（継続審議）

3. その他

4. 閉会

議事録（要点筆記）

1. 開会

- ・省略

2. 議題

（1）第3次石狩市観光振興計画の策定について（継続審議）

【事務局】

（資料1 説明）

- ・差替資料において、1ページの計画策定の趣旨における3段落目の下部に、「本市では令和2年12月に「2050年ゼロカーボンシティ」宣言を行い、社会経済活動と両立した脱炭素への取り組みが始まっています。」という文言を、また、4段落目に「気候変動をはじめとする環境問題への対応などに加え」という環境への配慮に関する文章を追記した。
- ・原案の3ページ「(3) 産業振興関連計画における共通テーマ及び連携項目」について、4計画の共通テーマは、第2次計画では、「地域づくりの基盤としての観光を視点とした産業振興の推進」だったところ、第3次計画では、「持続可能な地域を目指す産業の振興」とし、農水産業や商工業、観光などの各産業間の連携強化を図る。
- ・連携項目としては、1つ目に、少子高齢化に伴う労働力人口が減少しており、各業種において担い手不足が深刻化していることから、若者や女性等の多様な人材を産業の担い手として確保することを目指し、「産業を支える担い手の育成」を設定した。
- ・2つ目に、本市が誇る農水産物等の資源を「地域ブランド」として活かし、農水産業者だけではなく、地域や商工業者との業種間連携を行うことで6次産業化の取り組みを推進することを目指し、「石狩ブランドの確立」を設定した。
- ・3つ目に、そのブランディングした商品のプロモーション手法や販売方法の確立を目指し、「物産振興体制の確立」を設定した。
- ・この3項目については、第2次計画から継続としているものである。
- ・4つ目は、これらの地域資源等を将来世代へ存続し、地域経済が発展し続けるための基盤づくりを進めることを目指して「地域資源を育て・守り・活かす基盤づくりの推進」を新たに掲げている。
- ・これらの4つの連携項目を設定し、横の連携を意識することによる一体的・効果的な産業振興を図る。
- ・同ページ下部の「(4) 計画の進捗管理」において、2段落目の「なお、計画の進捗状況～」という文章を、前回の素案では2ページの「(2) 計画の期間」に記載していたが、こちらに記載場所を変更している。
- ・11ページの基本施策1「観光資源の活用と整備」において、はまなすの丘公園や黄金山、白銀の滝などの具体的な観光資源等を明記した。
- ・前回の策定委員会における意見を踏まえ、2段落目にアウトドアに関する文章を追記した。
- ・14ページの重点施策④「観光資源・自然環境の保護保全」において、自然資源であるマクンベツ湿原のミズバショウと、戸田記念墓地公園の桜の写真を追加した。
- ・15ページの基本施策2「市内周遊の促進」において、ヴィジターセンター及び浜益温泉、ポケふたの

写真を追加した。

- ・17 ページの基本施策3「食を通じた誘客促進」として、浜益和牛とジビエに関する文章を追記した。
- ・18 ページの基本施策4「サケやニシン等の歴史・文化の発信」において、最終段落の「その他、樋口季一郎や渋井一夫～」という文章を追記し、サケとニシン以外の歴史的・文化的資源の活用について追記した。
- ・20 ページの重点施策⑩「観光関連事業者・協議会等との連携強化」の図20において、前回まで旅行者と地域コーディネーターの間に旅行会社を介していたが、着地型観光においては旅行会社を介さないことから、図の修正を行った。
- ・21 ページの「(4) 計画の成果指標」について、資料1に各成果指標の設定方法を記載している。
- ・観光入込客数は、今までの入込の成果と今後の北海道の人口減少率を勘案して設定することとした。
- ・平成23年度から令和2年度までの10年間の観光入込客数の推移を基に、その間の増加率を令和13年度まで維持することを目指し、目標値を250万人に設定した。
- ・本市の観光客の中心は道内客であり、北海道の人口は、令和13年度までに8.15%減少するものと推計されているが、この目標ではこの要素は含めていない。
- ・北海道の人口減少の要素を含んだ場合においては、計算上では230万人と推計されることから、目標を達成するには、近年の誘客に向けた取り組み以上の、より一層効果的な観光施策に取り組む必要がある。
- ・道の駅石狩「あいろんど厚田」の入込客数については、平成30年度は約61万人、令和元年度は約43万人、令和2年度が約34万人で推移しているところ、指定管理者と協議した上で、40万人の入込を目標としている。
- ・宿泊者数については、着地型観光の重要なファクターであることから、成果指標の1つとしている。宿泊施設が少ないことから、日帰り観光客が中心であり、例年宿泊者数は数万人程度となっているが、新港地域に宿泊施設が建設されたことや、アウトドアブームによるキャンプ場等の宿泊利用の増加が期待されることから、5万人を目標としている。
- ・地元の商品を道の駅で売ることによって市内事業者の発展につながることから、道の駅における新商品数を成果指標の一つとしており、直近3年間の平均を基に年間10件を目標としている。
- ・石狩市が好きな市民の割合は、石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標にそそえ、100%を目指す。
- ・今後のスケジュールとしては、12月10日に総務常任委員会へ報告、12月20日より1か月間のパブリックコメントを行う。その後、原案に修正を加え、2月あるいは3月に第4回目の策定委員会を開催し、そこで最終案を検討していただきたい。

【南副委員長】

- ・17 ページのジビエの記載に関して、今現在、市内でどのようなことが行われているのか。
- ・18 ページの基本施策4「サケやニシン等の歴史・文化の発信」の最終段落に偉人をいくつか書いているが、渋井一夫は偉人に含まれるのか。それよりも元横綱の吉葉山潤之助の方が適するのではないのか。
- ・宿泊者数の目標を5万人に設定しているが、令和2年の宿泊者数の内訳を教えてください。

【事務局】

- ・石狩市農業協同組合が運営する地物市場「とれのさと」において、地元で捕獲されたエゾシカなどを用いた加工品が販売されていることを踏まえてジビエの記述を設けている。
- ・渋井一夫については、偉人という位置づけにふさわしいか改めて検討する。しかしながら、事実として、渋井一夫の絵画は高く評価されているので、記述を除いたにせよ、観光資源として活用していきたいと考えている。
- ・令和2年度の宿泊者数の内訳について、資料が不足しているのでわかる範囲での回答となるが、スーパーホテルは25,000人、厚田キャンプ場は日帰りも含め15,000人、残りの3,000人程度は民宿となっている。

【岸本委員】

- ・ニセコで外国人の40日間の連泊が行われていると聞いており、その経済効果はとても大きいことから、石狩市においてもこのような長期の受入を目指す考えを持つことが必要であるとともに、それが可能な受入環境の整備を進めると良い。

【事務局】

- ・今までのインバウンドの取組としては、札幌圏に来る外国人観光客の誘客を図るため、短期滞在の方を対象としたプロモーションを中心に行ってきた。
- ・高岡地区の古民家の宿 Solii では宿泊に加えて農業体験などもでき、長期滞在を含めた外国人観光客を迎える体制づくりも進められている。

【平塚委員】

- ・計画策定の趣旨に脱炭素に係る文言が追記されたが、計画内に具体的な施策の記載はないため、どのように取組を進めるかイメージがあれば教えていただきたい。

【事務局】

- ・脱炭素の取組は範囲が広く、省エネ機器を導入するだけでも脱炭素に当たり、行政や民間事業者の様々な取組が該当するため、基本施策や重点施策に具体的に盛り込むことは困難であると考えており、このような計画策定の趣旨に記載している。
- ・また、新たな観光施策を進める際にはこういった意識を持つことが必要という意識付けを行うという意味も含めている。

【木村委員】

- ・サイクルツーリズムに関して、市内にサイクリングフィールドはどのようなものがあるか。

【事務局】

- ・市内に加え、増毛や当別を含めた様々なコースがあり、起伏に富んだコースや海岸線を通るコース、高

岡地区の田園風景を楽しむコースなど、広域的にサイクリングマップを作成している。

- ・そのマップの中でコースの付近にある飲食店や休憩スポットの紹介を行い、食や景観等と結び付けていく。

【秋井委員長】

- ・道の駅では、サイクリストやバイカーの来場が増えている。
- ・道の駅のほか、わがまま農園カフェなどの飲食店にもサイクルラックが設置されており、サイクルツーリズムに積極的なまちとして認識されつつある。

【南副委員長】

- ・観光協会としては、観光センターでレンタサイクルを行うほか、ビジターセンターや運上屋などにサイクルラックを設置し、簡単な補修道具も置いてある。

【嶋田委員】

- ・全体を通して既存の地域資源を利用するイメージが強く感じられたが、今後新たなに観光地や観光施設を造成していくことは計画に盛り込まないのか。

【事務局】

- ・行政側では今段階で新たに整備を予定しているものはない。民間事業者が新たに施設整備を行う可能性もあるが、具体的な計画は把握していないので、厚田地区であれば道の駅、本町地区であれば観光センターやビジターセンター、弁天歴史公園などの既存施設を活用して事業展開を考えていくことを中心としている。

令和 3 年 12 月 27 日 議事録確認

第 3 次石狩市観光振興計画策定委員会

委員長 秋井 卓也